

加波山事件について（桜川市内の事跡を中心に）

平成 24 年 6 月 1 日

桜川市教育委員会文化財課

加波山事件とは、明治 17（1884）年におこった自由民権運動の激化事件の一つ。事件の舞台となった加波山は桜川市内にあるが、蜂起した自由党員 16 名は市外・県外の人物である。この事件に関する詳しいことは『茨城県史料 近代政治社会編Ⅲ 加波山事件』などをはじめとする数多くの書籍を参照いただきたい。また、蜂起に参加した富松正安ら 3 名の茨城県人は現在の筑西市出身で、彼らに関することは筑西市にお尋ねされたい。

ここでは事件にかかわる場所や事柄のうち、桜川市内に所在するものについて紹介する（場所の後ろの数字は地図の数字と対応している）。

明治 17 年 9 月に宇都宮の栃木県庁襲撃計画を立てた河野広体らは、東京神田など各地で事件・事故をおこし、警察の追及から逃れるため富松正安を館長する下館（現筑西市）の有為館へ潜入した。彼らは富松を首領とし、雨引山（桜川市本木）で決起するべく 22 日夜に下館を出発した。

一行は 23 日に雨引山へ向かう途中、富松の旧友である本木村（現桜川市本木）の勝田盛一郎宅①に立ち寄る。ここで勝田の意見を入れて決起の場所を雨引山から加波山に変更し、同日総勢 16 名が加波山で挙兵した。加波山山頂②に「加波山本部」「自由之魁」「压制政府転覆」「一死以報国」などと大書した旗を翻し、檄文を草して近隣に配布、決起を呼びかけたが、それに応じたものはいなかった。

彼らの内 10 名は同夜山を降り、真壁町（現桜川市真壁町真壁）の下妻警察署町屋分署③を襲撃し、爆弾を投げて署員を追い払い、お金や刀剣などを奪った。その後、町内の豪商中村家④へ向かい、軍資金と称して 20 円（現在の約 25 万円）を押し借りした。さらに一行は資金調達のため、桜井村（現桜川市真壁町桜井）の酒造業藤村家⑤へ押し入ったが抵抗にあい目的を達せず、爆弾を投げつけて加波山へ退却した。

翌 24 日夜、このままでは資金・食料がつき苦境に立たされると判断した一行は、宇都宮の官庁を襲撃することで局面の打開を図ろうと考え、下山。ところが、長岡村（現桜川市真壁町長岡）のはずれ⑥に至った時、警察官 20 名ほどの一隊と暗闇の中衝突し、この乱戦で平尾八十吉と警官 1 名が死亡、複数の負傷者を出した。平尾の遺体はその後離れた場所にある小幡橋のたもとにあった馬捨て場に埋められたが、のちに村民の手により密かに真徳寺⑦へ移して埋葬された、と伝わる。

警官隊から逃れた一行は後日の再会を約して解散したものの、翌年 2 月までに全員が逮捕された。

※文中に示した場所のなかには、現在も居住されている方がいらっしゃるところがあります。見学の際には居住者の方の御迷惑にならないよう、十分御配慮下さい。